



ひのみなみ 支えあいネットワークだより

安全・安心まちづくり～みんなで育てるまちの防災力～



日野南連合自治会会長・日野南小学校地域防災拠点運営委員長 上田 昭則

昨年、一昨年と2年以上の長期にわたる新型コロナ禍の動向は、未だ先行き不透明な状況下にあります。地域の皆さまには何かと不自由な日常を強いられていることと思いますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

このような状況下で、ほとんどの地域活動が凍結を余儀なくされてはおりますが、安全・安心まちづくりの要である「自助・共助」の備えだけは一刻の猶予もありません。

現在、港南区には地域防災拠点が31カ所設けられており、夫々の地域事情を背景に工夫を凝らした取り組みが行われておりますが、日野南小地域防災拠点ではこの程、栄区のローレルスクエアが従来のメンバー（野村港南台、つつしが丘、グランヒルズ、コープ野村、藤が沢公務員住宅）に加わり、一緒に活動を進めることになりました。今後は6つの自治会が連携を保ちながら活動を進めることとなります。ご理解とご協力をお願いいたします。

第3回日野南地域支えあいネットワーク連絡会 ご報告 2021年12月11日開催

今回の連絡会は第4期日野南地区地域福祉保健計画（こころつなぐ日野南）の安全・安心のまちづくりから「防災・減災」をテーマとし、住民一人ひとりの防災意識やまちの防災力を高めるためにできること、やっていきたいことを話し合いました。

連絡会メンバーを4つのグループに分け、2つのキーワードを基にして、討論・意見交換を行いました。

- I 平常時の備え（災害時助け合いグループの位置づけ、防災訓練、備蓄の徹底、要援護者支援）
- II 発災直後の行動（災害時助け合いグループへの期待、在宅避難）

2011年3月に起きた東日本大震災から11年が経ちました。その間、日本列島各地で地震による大きな被害が発生しましたが、幸いにも、関東・東海地区は今まで震災の被害からは免れてきました。地震の予測は極めて難しく、明日かもしれない、1カ月先かもしれない、あるいは3年、30年先のことも分からないまま、いつ何時どんな状況の下で何が起きるのか、一切予測が許されないだけに、これに備えることは容易なことではありませんが、常日頃、防災意識をリフレッシュして、備えを怠らないことは減災のために欠かせない心構えと言えるのではないでしょうか。



ここに紹介する4グループからの提言は特に目新しいものではありませんが、これを機に備えの状況を再確認する機会にさせていただきたいと思います。以下、各グループの話題をもとに、港南区役所から提供されている防災関係の資料等を交えてご紹介することといたします。

1. 平常時の備えについて

(1) 「助け合いグループ」の位置づけと期待される役割

本件については、意見交換の席上「仕組みの主旨について十分な周知活動を行い、いざというときに期待される機能が発揮できる環境作りが必要ではないか」との指摘がありました。

併せて「定例の各自治会活動の中で、もっと災害対策についての活発な議論が必要ではないか」との意見もいただきました。

ご指摘の通りあらゆる機会を活用してPRを重ねる努力が必要だと思いますが、本稿では日野南小学校地域防災拠点（以下、当防災拠点）が「助け合いグループ・行動マニュアル」で整理している内容を再掲載しPRの一環とさせていただきます。



2008年に生まれた“日野南地区独自”の取り組みです！

知っていますか？！「災害時助け合いグループ」

▽「助け合いグループ」とは2008年（平成20年）に当防災拠点が大地震に備えて『向こう三軒両隣が全員で力を合わせ、助け合う』ことを目指して立ち上げた仕組みの総称です。

▽各グループは既存の自治会の「班」を分割して4～8世帯ごとの少人数で構成されており、臨機応変の活動に備える形になっています。

▽グループリーダーを予め指名する形はとっておりません。発災時、体力的、精神的に余力のある人による自発的、献身的な働きを拠りどころにして成り立つ仕組みです。

▽この仕組みが有効に機能するかどうかは各グループの日頃のお付き合いにかかっているととも言えます。

コミュニケーションのあり方、顔見知りになるきっかけづくり、信頼関係づくりなど日頃のグループの運営は各グループメンバーの判断に委ねられています。

以上が「助け合いグループ」の骨子です。話題に取り上げられることを期待します。

(2) 防災訓練について

当防災拠点の「地域合同防災訓練」は毎年500人超の参加により行われてきましたが、例のコロナ禍により20年、21年と中止を余儀なくされました。防災意識の風化を防ぐためにも再開が求められるところです。

今回の意見交換の中で、「日野南小学校での避難所生活の体験訓練」が提案されました。

▽避難所生活の大変さ、辛さを実体験することにより新たな視点が開ける。

▽実体験により、避難所の弱点、備えるべきポイントをより具体的に指摘できるなどが期待できることから検討課題にしたいと考えています。

2021年10月30日に、日野南小学校地域防災拠点では運営委員と災害時協力員などに限定した防災拠点の立ち上げ訓練を行いました。



(3) 備蓄（ローリングストック）の徹底

今回の意見交換会のメンバーに「熊本地震」の体験者がいらっしゃいました。

▽情報の不足、停電の長期化による不安。

▽車中泊は2日が体力の限界。

▽ガソリンスタンドへの長蛇の列。

▽4日間、塩おむすびだけの食事を体験し、食料備蓄の必要性を痛感したことなど、真に迫った話が紹介されました。

- ① ローリングストック（多めの買い置き・循環使用）による水・食料の備蓄（ストック量の目安は最低3日分、できれば1週間分）
- ② トイレパックの用意
- ③ ラジオ、懐中電灯、スマホの電源補充
- ④ 常備薬の確保

等、数えあげればきりがありませんが、必要最小限度の備えだけは心掛けたいものです。

ながら備蓄でローリングストック

暮らしながら、備えるという新習慣

ストック(備蓄)をローリング(目録)させて災害に備えよう!

メリット

- 賞味期限切れを防げる
- 災害時のシミュレーションができる
- なじみのある食品を非常食にできる

おすすめ備蓄リスト～食料品～

品名	個数	チェック	品名	個数	チェック
1 水			11 野菜ジュース		
2 パックご飯			12 大豆など豆類(缶詰・パック)		
3 カップ麺			13 トマト缶・トマトパック		
4 乾麺(パスタ)			14 日持ちのする野菜		
5 おかゆ			15 乾物(ゆず干し、干しいたげなど)		
6 シリアル			16 菓子(おめ・ビスケット・チョコレート)		
7 栄養補助食品			17 インスタント味噌汁		
8 レトルトカレー			18 粉末スープ		
9 缶詰(ツナ・サバ・サンマ・梅干しなど)			19 調味料(砂糖、塩、醤油、酒など)		
10 乾物(にほしなど)			20 ふりかけ		

(4) 障がいのある方、高齢者、乳幼児の支援

SDGsの究極の目標は「誰一人取り残さない世の中の実現」ですが、これへの道のりは決して易しいものではありません。

当防災拠点では、区の進める「**災害時要援護者支援事業**」に参画し、厳重な管理の下、援護が必要な方々のリストを保管しており、イザという時に備えておりますが、個々の事情に立ち向かうには、力不足というのが実態です。

今後とも、行政が進める施策と連携して援護策の充実を図っていく大事な課題と認識しております。



こんな意見もありました！

▽若い人の活躍に期待

- 中学生の力を貸してほしい。事前に保護者の承諾を取るなど、学校との協力関係を作っておけないか。
- 小学校の防災訓練の見学に来ている保護者の方も訓練に入ってもらいたい。
- 手伝いたいが「何をすればよいのかわからない」との声も⇒頼みたいことの明文化。
- SDGsに関心のある方は増えている。小学校でも取り組んでいる。

2. 発災直後の行動について

(1) 「助け合いグループ」活動への期待

発災直後に先ず求められることは「自身の身の安全を確保すること」「家族の安全を確認すること」であることは言うまでもありません。

次の行動として、「自分は安全で良かった」と言うに止まらず、他のメンバーの安否にも心を寄せていただくようお願いいたします。

お互いが力を合わせてグループ内の安否状況をできるだけ早く、防災拠点に伝えることが、減災に直結するとの認識を共有したいものであります。

(2) 在宅避難のおすすめ

従来、行政が避難についてPRしている文書には

「市内の1ヶ所でも震度5強以上の地震が起きた時は『いっとき避難場所』（当防災拠点の場合は、先ず「グループ集合場所」に集合）を経由して避難場所（地域の小学校）に移動する」との表現が使われていましたが、最近の広報内容には次のような変化が見られます。

「大地震に備えて在宅避難の準備はできていますか？」

地震が発生したら、安全な避難所 → 地域防災拠点（小中学校）に行けばいい

・・・そう思っていないませんか？

地域防災拠点は自宅に住めない人が避難する場所です。

避難所のスペースは限られています。本当に避難が必要な人のために、自宅での生活が可能であれば在宅避難（在宅避難生活）をしましょう。

このような変化は、より現実的な見方に基づいた考え方、ないしはコロナ禍の影響が背景にあるのかどうかはさておき、避難生活のあり方についての大きな転換が図られていることと理解しておく必要があるのではないのでしょうか。



構成メンバー：日野南連合自治会、野村港南台自治会、港南つつじヶ丘自治会、グランヒルズ港南台自治会、コープ野村港南台自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、日野南小防災拠点運営委員会、保健活動推進委員会、消費生活推進員の会、青少年指導員協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、交通安全母の会、環境事業推進委員連絡協議会、日野南小学校、小学校PTA、日野南中学校、中学校PTA、野村港南台喜楽会、つつじヶ丘和楽会